

令和六年度
入学試験問題
解答用紙

国語

国語総合・現代文B・古典B

1/2

第一問

問一	a	b	c	d	e
	渦	状態	想像	繊細	膨大(膨大)

問二

知覚や感覚は人間に生まれつき備わった能力だと一般的に思われていること。

問三

開眼手術を受けて眼が見えるようになった人が眼で見ただけという条件の下で、立方体と球を見わけることができるかという問題。

問四

1 それは、開く提である。

2 開眼手術を受けた人が眼を開いても眼の前に広がるのは全くの混沌とした世界なので、その人が手術後初めて眼を開いて立方体と球を見ても、両者を見わけることができないということ。

問五

立方体と球の視覚的な現れに入りこんだ触覚経験が立方体と球の触覚的な現れとの何らかのつながりにより、立方体と球の視覚的な現れをそれらの触覚的な現れと関係づけられるから。

問六

すべてが逆さに見える段階から、一部のものが正立して見える無秩序の段階を経て、すべてが正立して見える秩序だった段階に至る。

問七

分節化

問八

交響曲の指揮者は膨大な数の音の響き合いとの交わりを通して聴覚をうまく働かせる能力を習得し、その能力を用いて膨大な数の音の響き合いから刺激を適切に探り出すことによって得られる。

第二問

問一

①	尊敬の助動詞「らる」の連用形 活用語尾	②	ク活用形容詞「なし」の已然形 活用語尾の一部
③	完了の助動詞「り」の已然形の活用 語尾		

ア 我が身のことであるがほんとうに理解できない。

問二

イ どうして帰することができるだろうか、いやできないだろう。

ウ 私の望みとして帰したくない。

問二
エ どこへでも思いのままに好きなところに行くがよい。
オ あなたもわたしと同じ気持ちがあるならば

問三
静を都へ帰すこと
(以上十字)
問四
煩惱のまま菩提の山に伴うのは神への憚りがあるから。
(以上二十五字)
契り

問六
義経の子を身ごもっていることで 幕府にひどい目にあわされるので、この場で殺してほしい。
問七
義経に託された鏡は、義経の死後の形見になるように感じ
じたから。
(以上三十字)
問八
義経様が映したという鏡を見ても嬉しくもない。この鏡は、恋しい義経様の姿を映さないの。

第三問

問一
a ゆゑに (選)
b こたへて (選)
c より
問二
ウ

問三
猶ほ朝の暮(れ)有るがごとし。

問四
世の中のできごとをすべてはこの目で見ることはできない。

問五
留心治道
問六
天子は国の無事と安寧を常に心がけなければ自棄てられるから、天子は人々を畏れなければならない。

問七
棄而不用

問八
太宗は、国が「滅亡」する原因を、世のできごとを気にもせず、政治の成否がわからず、忠義な臣下は口をつぐみ、邪悪な臣下が近づいてきて、間違いが見えなくなるからと考え、魏徴は、国が「長久」しない原因を、安寧でよく治まっていることで君主が国の危機や世の乱れを忘れるからと考えている。